



31 浅井忠

《樋口大尉小児を扶くる》

一面

明治二十八年（一八九五）

油彩、カンヴァス

七四・八×一〇二・一

浅井忠は第四回内国博に《旅順戦後の捜索》（東京国立博物館所蔵）を出品し、黒田清輝、松岡寿、和田英作とともに、洋画では最高位となる妙技二等賞を受賞した。旧派（浅井、松岡）と新派（黒田、和田）が等しく受賞をわけあったかたちであるが、実際にはこのとき美術館で大きな話題をさらったのは、黒田が出品した《朝妝》であった。松岡が肖像画、和田が風景画と、それまでの洋画ジャンルを穩当に踏襲したものであったのに対し、西洋婦人の裸体画の展示は既存の社会通念に抵触するものであった。黒田が挑発的ともいえる作品を発表する一方で、観衆の記憶に新しい日清戦争をとりあげたのが浅井であった。隣国の人々や風景のなかに踏みこむ勇ましい日本軍兵士が、洋画の新たな主題となった。

本作も日清戦争を画題とし、内国博と同じ年の明治美術会第七回展覧会に出品された。第六師団大隊長樋口誠三郎大尉が戦地に捨てられた子供の親を捜しあてたエピソードで、戦時中から巷間に広まった美談として知られる。浅井忠（二八五六―一九〇七）は江戸に生まれ、国沢新九郎の画塾彰技堂で洋画を学び、明治九年に開校した工部美術学校でフォンタネーリの指導を受けた。二十二年には明治美術会を創立、三十一年には東京美術学校教授に就任した。その後、渡仏し、帰国後は関西洋画壇で後進の指導にあたった。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections